

## 平成28年度 第3回地域医療推進部会議事録

1. 日 時 平成29年2月22日（水） 第3回帯広市健康生活支援審議会終了後  
19:45～20:05
2. 場 所 帯広市役所 10階 第3会議室
3. 出席委員 稲葉秀一部会長、小林靖副部会長、菊池英明委員、佐々木修一委員、竹澤裕之専門委員、横尾洋子専門委員、森 茂樹専門委員、若田部紀代子専門委員
  - (1) 前回会議の議事録（案）の確認
  - (2) 平成29年度健康推進課関係予算（案）について
  - (3) その他

### 5. 会議内容

#### ○事務局

お晩でございます。定刻となりましたので、ただ今から、平成28年度第3回地域医療推進部会を開会いたします。

本日の委員の出席は、地域医療推進部会、委員9名中8名のご出席をいただいております。出席人数が委員の過半数に達していますことから、本日の部会は成立しております。

それでは、これより議事の進行につきましては、稲葉部会長にお願いいたします。

#### ●部会長

それでは、会議に入らせていただきます。最初に、前回会議の議事録の確認についてを議題といたします。

この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。

議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

別になければ、議事録は了承されたものといたします。

次に、「平成29年度健康推進課関係予算(案)について」を議題といたします。

事務局から、説明願います。

#### ○事務局

平成29年度の健康推進課関係予算(案)につきまして、説明させていただきます。

資料は1と2になりますが、資料2に修正がありましたので、お手元に配布させていただきました。

資料2の説明の部分で修正箇所について説明させていただきます。

始めに「資料1」をご覧ください。

平成29年度の健康推進課予算の概要であります。総事業費は、9億8千861万3千円であります。

内訳といたしましては、左上に、記載してありますように保健衛生総務費が2億6千451万9千円、そのうち、主なものでは、保健衛生推進費が1千152万9千円、公衆浴場対策費が1千541万5千円、看護師等養成機関確保対策費が901万円、帯広厚生病院運営費補助事業費が1億5千960万円となっております。

続きまして、右側に行きまして、予防費は、総額で5億4千152万3千円となっており、主なものとしては、

がん検診・健康診査費が、1億4千109万5千円。予防接種費が、3億698万8千円、感染症予防費が、7千765万3千円 などとなっております。昨年の部会でご意見のありました、ピロリ菌検査の実施について、大腸がん検診の無料クーポン事業終了に伴う市独自の取り組みについて、胃がん検診の胃カメラ導入についてはがん検診費の予算になります。

ピロリ菌検査は、子供やその保護者に対し、ピロリ菌の正しい知識を普及啓発するため、平成28年度より、中学3年生を対象に学校で尿中抗体検査を実施し、平成28年度の実施状況は、一次検査1,427名中、希望者の995名が受検し、うち陽性者は57名でした。陽性者に対しては医師会の二次検査実施医療機関を案内し、二次検査の尿素呼気検査の受検者は、平成29年2月13日現在11名、うち陽性者3名のうち2名が除菌治療を終了しております。いずれも副反応等の報告はありません。平成28年度は、初年度ということで、準備等の都合により実施時期が遅くなったため、平成29年度は早い時期に検査を実施できるよう取り組む予定で医師会、教育委員会と協議中です。

今後の実施内容等の見直しについては、実績やアンケート調査の結果を積み重ねた上で医師会、教育委員会と協議していく考えあり、当分の間は、今年度同様の実施を予定しております。

次に大腸がん検診については、他のがん検診に比べ高い受診率で経過しており、過去5年間で34.8%となっております。国のクーポン事業が平成27年度で終了しましたが、未受診者への電話勧奨や出前健康教育での団体、企業への検診案内や周知などを継続して実施しており、平成28年度は34%の見込みでございます。

胃がん・肺がんの受診率が低いため、胃がん肺がんに対して重点をおいた取り組みを考えているところでございます。そのため、大腸がんの検診については平成29年度も、これまで同様、受診勧奨の取り組みを継続して実施していく予定です。

次に胃がん検診についてですが、がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針(平成28年4月1日)が一部改正され、従来の胃X線検診に加えて内視鏡検査を導入すること、対象年齢を原則50歳以上とすること、内視鏡での受診とした場合、検診間隔を2年に1度とすることとされましたが、施設検診での実施については、実施可能な医療機関を調査したところであり、実施に向けては十分な精度管理下で行うこととされており、検査医師の認定やダブルチェック体制を確保できるかなど課題も多く、医師会と協議をすすめていく考えでございます。平成29年度は、従来どおりの胃のバリウム検査の実施を予定しております。また、肺がん検診の施設導入についても併せて医師会と協議を進めていく考えでございます。

続きまして、左下に行きまして、保健福祉センター費は、保健福祉センターの管理に要します経費で4千558万6千円を計上しております。

最後に、右下になりますが、夜間急病診療費で、1億3千698万5千円となっております。

内訳といたしましては、休日夜間急病センターの管理運営費が、6千596万7千円。

在宅当番や二次救急医療など、救急医療対策費が7千101万8千円となっております。

続きまして、資料2ですが、資料右下自殺対策計画の策定の下から2行目、自殺のハイリスクの記載に誤りがありましたので修正しています。

「平成29年度 健康推進課関係予算及び主な事業」であります。

左側に、平成25年度からの28年度までの5年間の予算額と対前年度の増減額の推移を 記載しております。左下の「折れ線グラフ」の各年度の増減を見ていただきますと、

一番上の線が、合計額ですが、

平成27年度は特別交付税措置を活用した帯広厚生病院等への運営費補助の増額や二次救急委託料の増額と、水痘ワクチン、高齢者の肺炎球菌ワクチンの定期接種化などにより増となっております。

平成28年度は、日本脳炎の北海道における定期接種化による増、帯広コア学園の歯科衛生士科開設に伴う増築費補助、二次救急医療の委託料見直しによる減などにより全体として微減となっております。平成29年度は、特別交付税の制度改正による帯広厚生病院運営費補助額の減と介護老人保健施設の建設費補助の終了、休日夜間急病センターの利用料金制導入による委託料の減などにより全体として2億円ほど減となっております。

下の円グラフは平成29年度の予算の構成比であります。予防費が54.8%、保健衛生総務費26.8%、夜間急病診療費13.9%、保健福祉センター費が4.6%の順となっております。

次に、「平成29年度の主な事業」についてであります。資料の右側をご覧ください。

はじめに、「ふれあい銭湯事業」ですがこれまで、保護者同伴の15歳以下の子供を対象に入浴料金を無料としていた本事業の対象者に、高齢者を加え、介護予防事業と連携し、地域交流・健康増進を推進するため、入浴料の割引を行う公衆浴場に対し支援するものです。

次に、「自殺対策計画の策定」であります。

「自殺対策基本法」が改正され、市町村に自殺対策計画の策定が義務付けられたことから、自殺の地域分析を行い、計画を策定するものです。説明は以上です。

●部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

●委員

肺がんの施設検診というのは、どういう意味なのでしょう。

○事務局

現在、帯広市の肺がんについては対がん協会に委託しておりまして、集団検診のみを行っています。今後、肺がん検診についても施設検診の導入が可能かどうかを含めて、検討していくという内容になっています。

●部会長

あといかがでしょうか。

●委員

肺炎球菌というのを市で5歳刻みでやってるんですが、あれは毎年対象ということにはならないのですか。どういうわけで5年ごとなのかわからないんですが、1年ごとに検診と同じようにできないのかと思ってみたり。

●部会長

高齢者肺炎球菌の制度ができるときに、非常に高額なワクチンなものでして、国がそのように決めたのです。帯広市独自ではなくて、ですから、本来であれば年齢の差なく、65歳以上の方みなさんに接種できるような機会をもうけてあげることができればというのが本当なのですけれども。結構高額なワクチンで財政的なものもありまして、いまのようなことにとりあえずなっています。

○事務局

65歳から70歳、75歳、80歳・・・と5歳刻みなのですけれども、先ほど部会長おっしゃられたように、ワクチンが高価なものですから、一度に全員接種できないものですから、5年でみなさんそれぞれ一通り打てるような制度ということで国のほうで5歳刻みで設定したという経過になっております。

●委員

帯広市では、その実績は把握しているのですか。件数とかっていうのは、どうなのですか帯広市は。

○事務局

接種率でよろしいですか。

○事務局

接種人数と接種率ですね。高齢者の肺炎球菌ワクチンの接種率ですが、26年度から始まっているのですが、平成26年度は42.1%です。平成27年度については、37.1%です。平成28年度はまだ途中なのですが、12月末で29.2%となっております。

●委員

減ってきていますね。原因は。

○事務局

減ってはいないのですが、平成28年度は12月末なので、まだ3か月分がこれからなので、見込みいうと、おそらく38~39%くらいになると見込みと考えています。

○事務局

あとは、高齢者の方がどんどん増えてきますので、確かにそれに伴い接種されるかたも増えれば率は同じなのですが、分母がどんどん増えてくることに合わせて分子も増えないと、どうしても下がった見え方をするという事もあるかと思えます。いずれにしても大体40%前後の方々が接種しているということで、2年半が過ぎますので、後残り2年で皆さん一通り肺炎球菌のワクチンの接種が終わるという予定になっております。

●部会長

製薬メーカーさんのデータによりますと、全国ですが大体40%と言われてます。いわゆる全国の高齢者の数はわかっているので、出荷した薬の数で率をだすと、大体40%。だけど、集団でのその地域に対する予防効果、免疫力をあげるとなると70%ぐらいは欲しいというところですよ。

この辺は歯科医師会と前にポスターを作られたり、いろいろと。

後はいかがでしょうか。よろしいですか。

他になければ、質疑を終了します。次に、その他について、事務局から、説明願います。

○事務局

特にございません。

●部会長

それでは、ただいまの議題は終了させていただきます。  
最後に、日程等につきまして何かないでしょうか。

○事務局

次回の地域医療推進部会の日程につきましては、具体的に稲葉部会長と調整のうえ、委員の皆様にご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

●部会長

ありがとうございます。以上で本日予定されている議事は終了いたしました。これで閉会いたします。